

—卒業 50 年。18 才への回帰。—

「都立青山高等学校卒業生 14 期会」司会進行台本

20111106 大沢達男

1、プロローグ(13:55)

校歌の BGM が消え、突然『ライオンは寝ている』(ザ・トーケンズ) が流れてくる。場内はまだ薄暗くざわついているが、曲をバックにして司会進行の T (大沢達男) と A (岡本篤子) のトークが、DJ 番組のように聞こえてくる。

T 「なつかしい顔が集まりましたね」

A 「ほんと！」

T 「いい男、いい女ばかりですね」

A 「うれしい！」

T 「仕事仲間に、日比谷高校や新宿高校の秀才がたくさんいたんですが、ボクはときどき皮肉を言ってやりましたよ」

A 「なんて？」

T 「いいなあー！日比谷や新宿は勉強ができれば入学できるんだから。青高の入試を知ってる？成績＋写真選考！ハードル高いよ」

A 「ハッハッハッ！写真選考が入試。そうね、ルックスの青高かもね」

T 「アツコさん。あなたの元カレは来ていますか」

A 「それが、まだなんです。・・・タツオさんは？」

T 「ボクも、まだです。でもいい。あきらめているんだ。

ところで、現在何人ぐらい、集まっていますか？」

A 「すでに、100 人を突破しました、出席予定の 107 名にあと少しです」

T 「そうですか。そりやよかったです。盛り上がりますね」

A 「開会予定の 2 時が近づきました。始めていいと思います」

T 「よーし、それじゃ、行きましょう」

2、オープニング(14:00~14:10)

BG の音楽は消え、ステージに司会進行の T&A が登場する。

T&A 「みなさん、お久しぶりです。ここにちは」

T&A 「(高らかに宣言するように)『卒業 50 年。18 才への回帰。都立青山高校卒業生 14 期

会』を開会します」

T「本日の進行は、3年8組の大沢達男と、A「3年4組の岡本篤子です」

T&A「よろしくお願ひします」

T「佐用さん！いらっしゃいますか？あなたがいちばん南からやってきました。

九州は別府からです。みなさん拍手を！」

A「種倉さん！どちらですか？あなたがいちばん北からやってきました。

岩手県の盛岡です。みなさん拍手をお願いします」

T「たったの一組、カップルをお迎えしました。

難波さんです。いらっしゃいますか。奥さまはフランス人。マダム！くつろいでいらっしゃいますか。みなさん拍手を！」

T「それでは、開会宣言を4組の斎藤繁さんにやっていただきます」

A「斎藤さんは、幹事の代表として、企画から実施まで、

すばらしいリーダーシップを發揮されました。青高新聞『くまんばち』の斎藤繁さんに
みなさん拍手をお願いします」

斎藤「(挨拶3分)」

T「斎藤さんありがとうございました。

続きまして来賓の先生をご紹介いたします。谷村先生、福田先生、黒瀬先生、田部先生、
馬場先生です。先生方、恐縮です。ステージのお上がりください」

先生方「(スピーチ)」

T&A「先生方ありがとうございました。みなさまもう一度、拍手をお願いします」

T「それでは、そのほかの恩師の先生方のご消息、そして14期会の全員の状況につきまして、4組の中島繁さんに報告していただきます」

中島「(先生と生徒の消息報告)」

A「なんと、30名。1割に近い方が亡くなられているんですね。心からご冥福をお祈りします」

T&A「(3秒ほどの黙祷)」

T「それではいよいよパーティーの開幕です。乾杯の音頭は、1組の奥山賢（まさる）さんです」

A「奥山さんには、会の運営について貴重なアドバイスをたくさんいただきました。奥山さんどーぞ」

奥山「(スピーチ1分) 乾杯！」

A「奥山さん、ありがとうございました。それでは、みなさんお食事をお始めください」

T「テーブルでは禁煙です。おタバコは、こちらの喫煙コーナーでお願いします。お手洗いは、会場のうしろ左右にございます」

3、食事と歓談(14:20~15:00)

T 「今後の予定を申し上げます。

これからはお食事とご歓談の時間です。

この時間には3つのイベントがあります。

第1は、こちらのスクリーンに高校生活の思い出の写真が映し出されます。インターネット青高サイトでご尽力をいただいている6組渡辺栄一さんの編集です。

第2は、お手元に、なつかしの青高新聞『くまんばち』をお届けします。

第3は、各組対抗の青春の歌コンテストの演出を決めていただきます。

コンテストのディレクターは、3組の大木さん。

歌手は最低でも2人以上、デュエットでもコーラスでも結構です。

エキサイティングな演出をお願いします」

A 「食事の後、3時からは、18才への時間旅行、音楽のワンダーランドが始まります。

まず8組の香川さんが率いるエレキバンド『ビート64』の演奏、そして4時ちょっと前から、クラス対抗の『青春の歌』コンテスト始まります」

T 「音楽のワンダーランドを旅したら、エンディングに入ります。

まず校歌の齊唱、3本締めでお開き。そして記念撮影、こんな予定になっています」

A 「お食事はカジュアルな多国籍料理です」

T 「お飲物はすべてフリー。ソフトドリンクのほか、ビール、焼酎、ウイスキー、がございます。そして今日は特別にいいワインが届いております。有名なワイン評論家でワインのインポーターである6組塙原正章さんのセレクションです。日本酒は、千葉は成田の名酒「長命泉(ちょうめせん)」が、3組大木節子さんから。焼酎は、3組の熊本・天草の中井詔太郎さんから。さらにキャッシュで3万円を4組の吉田文子さんからご寄付していただいています。どうぞお楽しみください」

『くまんばち』配布。撮影班とT&Aは、各クラスを訪れ、インタビューする。

14:45からは、ステージ上でバンド演奏の準備が始まる)

4、「ビート64」(15:00~15:35)

T 「Next program is the BEAT64.

Ladies & Gentlemen would please warm welcome to the BEAT64.」

A 「ありがとうございます。ビート64は、8組の香川大(まさる)さんが率いるエレキバンドです。

香川さんにお話をうかがいます」

「香川さんは外苑中、青高、慶應大学、そしてエンジニアの道を歩みながらも、なぜエレキに手を染めるようになったのですか」

香川 「(ビート 64 の紹介)」

T 「OK! Everybody clap your hands and stomp your feet. Please enjoy dancing and · · · kissing. The BEAT64!」

(演奏が終わったら、ステージ上ではカラオケの準備を始める)

5、クラス対抗「青春の歌」コンテスト (15:50~16:55)

T 「いよいよ『青春の歌』時間ですが、歌の準備ができるまでの時間を利用して、青高ウェブサイトについての説明を、渡辺栄一さんと中島繁さんにさせていただきます」

渡辺・中島 「· · · · ·」

T 「ほかに、この際だから、言っておきたい。発言をしたい方、いらっしゃいますか?」

X 「· · ·」

A 「ありがとうございました。

それではお待たせしました。本日のメインイベント、クラス対抗『青春の歌』コンテストを始めます」

出場順と曲目を発表します。

1組 「上を向いて歩こう」、

2組 「銀座の恋の物語」、

3組 「いつでも夢を」

4組 「小さなスナック」、

5組 「風」、

6組 「白いブランコ」、

7組 「琵琶湖周航の歌」、

8組 「青葉城恋歌」。

選考は先生方とみなさんにお願いします。グランプリの1曲を決めたいと思います。

歌の上手下手ではありません。最もエキサイティングだった曲を選んでください」

T 「歌の前に、全員で発声練習をします。『高校三年生』を歌いましょう」

全員 「· · · 赤い夕陽が · · ·」

A 「トップバッターは1組『上を向いて歩こう』です。どーぞ！」

(と、8組の歌唱。曲の合間に曲目を紹介する)

T 「代表選手のみなさまお疲れさまでした。

それでは、グランプリ決定まで、コンテスト・ディレクター大木さんの一曲をお楽しみください」

A 「それでは、本日のグランプリを発表します。

グランプリは、みなさまの拍手により、7組の『琵琶湖周航の歌』に決まりました」

(グランプリの曲を歌ったクラスにシャンパン贈呈。

シュッポーンと抜かれるシャンパン。7組の万歳三唱)

T「18才への時間旅行をお楽しみいただけましたか。

会場を見てください。感激のあまり、泣いている方もいらっしゃいますよ。

音楽は思い出を作ります。歌は青春を再現します。

あの頃、18才に戻りたいときは、あの頃、18才の歌を歌う。

そして18才の力を得て、また明日に向かっていけるようになります」

6、エンディング(16:55~17:20)

(校歌斎唱)

A「それでは、あの頃の最高の思い出の歌、『都立青山高校校歌』を歌います」

A「ご起立ください。指揮を2組の大賀さん、ピアノを5組小森谷さんにお願いします」

「青高文化祭以来、50年ぶりの共演です」

T&A「すばらしい。ありがとうございました」

(閉会の挨拶)

T「それでは閉会の挨拶と3本締めです。5組の大澤武彦さんにお願いします」

A「大澤さんは14期会の事務作業のためにオフィスを提供してくれました。

ありがとうございました。それでは大澤さんお願ひします」

大澤「(3分あいさつと三本締め)」

T「以上でプログラムのすべてを終了しました。私ども司会進行に、行き届かないところが、たくさんあったと思いますが、お許しください」

A「みなさんのご協力で、素晴らしい会になりました。ありがとうございました」

T「それでは・・・幹事のみなさん!ステージにお上がりください。

長い道のりでした。長い戦いでした。お疲れさまでした」

A「会場のみなさん、幹事のみなさんにねぎらいの拍手をお願いします」

T&A「ありがとうございます。さようなら、またお会いしましょう」

(写真撮影)

「記念撮影をします。こちらに全員集合ですが、指示があるまで、そのままお待ちください。クラスごとの移動していただきます」

7、エピローグ(17:20~17:25)

照明は落ちる。会場から人は出て行く。『夏の日の恋』(アンディ・ウイリアムス)が流れてくる。プロローグのDJのような、T&Aの二人のトークが聞こえてくる。

T「お疲れさまでした。いま突然思い出したんだけど、絵画館の前に力持ちの外人プロレスラーが来て、バスを引っ張ったんだ。力道山もジャイアント・馬場もいた。バスが動いた

んだよ！

興奮したなあ」

A「私はやっぱり当時の皇太子殿下のご結婚パレードが忘れられない。絵画館には行かなかったけど。テレビでしっかり見ました。そして花嫁さんにすごーくあこがれました」

T「ところでアツコさん、元カレは来たの？」

A「うーん！？それより、タツオさんどうなのよ？先に言って！」

T「ボクの好きな人は、来なかつた、来れなかつた、だって亡くなってしまったんだ」

A「エツツ？誰だったの？」

T「2年のときに担任だった石黒静子先生。ぼくは姉のようにしたっていたんだ。

でも、しょうがないよね。50年だもの、ご出席の先生方に感謝しなくっちゃ」

T「じゃー、アツコさんは？」

A「私の元カレっていいか。お慕いしていた人、いらしていたんです！

でも今日は18才への回帰でしょう。心臓バッケンバッケン、声なんてかけられませんよね」

T「ワオー！話はヤバくなってきたぜ！じゃその話の続きは、2次会でっていうことで…」

T&A「アビーロードのスタッフのみなさまご協力ありがとうございました。お世話になりました。お・つ・か・れ・さま！」

『夏に日の恋』大きくなり、プレイアウト。

—END—